

業務委員会

委員長 上松 弘明

情報処理教育センターが発展的解消して、情報科学センターが誕生した。図書館と同じく、工学部、情報工学部から独立した組織になり、運営形態も各学科の利益代表的性格が強かった情報処理委員会がなくなり、全国共同利用の大型計算機センターでの運営形態に近くなったと思われる。情報科学センター運営委員会の下に専門委員会が設置され、業務委員会、広報教育委員会、研究開発委員会、etcがある。業務委員会という名前は聞きなれない名前なので、何をする委員会だろうと思われる方は多いと思う。国立大学の計算センターでは最大規模の東京大学大型センターの組織を調べたが、見あたらない。事務部の下に業務係がみられるだけである。それで何をする委員会かというと、すでに I S C - N E W S で御存知だと思いますが、センターの利用方法や、課金の方法、端末の各教室への配置法を審議してきました。情報科学センター専門委員会内規をみますと

- (1) 計算機システムの運用に関すること
- (2) 利用規則に関すること
- (3) 計算機システム及び共同利用方式の将来計画に関すること
- (4) その他、他の委員会に属しないこと

となっている。この委員会は戸畠、飯塚の両学部にまたがっているので一緒に集まるのは大変です。ファクシミリ、静止画白黒テレビを併用した電話会議で委員会を開いて審議したこともあります。機種選定はすでに終了しているので、この枠組の中で、両学部の教育研究がいかに円滑、効率よくいくか、又与えられたシステムの能力を最高に引き出すことができるかということを本委員会は任務としています。委員は各学科、教室から出ておられるので、利益代表的発言も飛び出し易いが、前記の趣旨に添って委員会を運営していくつもりですので、御理解と御協力を願いする次第です。計算センターの利用形態も、バッチ処理から T S S、パソコン端末とネットワークへと急速に発達したため教育もさることながら運営も難しくなってきています。大学での計算機利用形態の特殊性のため、サポートするメーカーも人手不足のため苦慮しているようです。この I B M の機械についてはすでに東北大学、大阪大学等で導入実績があるので参考にできるところは参考させて頂きたいと思っています。